

## 活動状況報告（1月）

学生留学コース 5期生 幡谷 省悟

私は11月からウィスコンシン大学マディソン校での研究を本格的に開始しました。引き続き植物の窒素代謝の解明を目的とした研究を行っています。今月からは、モデル植物であるシロイヌナズナに加えて、大腸菌のアミノ基転移酵素を対象とした実験も開始しました。留学前に北海道大学高須賀研究室で作成したプラスミドDNAを用いて、これまでの期間でKoper博士から教えていただいた手法で、大腸菌のアミノ基転移酵素を合成、精製しました。今後は、発現した大腸菌アミノ基転移酵素を使って、kinetic assayについて学びたいと考えています。

今月もこれまでと同様に、Maeda教授、Koper博士とのミーティング、ウィスコンシン大学マディソン校の研究室が行っている植物学に関するセミナーに毎週参加しています。これらの活動は、英語と研究両方の良いトレーニングになっていると感じます。

私が所属する北海道大学大学院国際食資源学院では、2月2日が修士論文の提出期限となりました。そのため、今月は研究室では実験をして、帰宅後に修士論文作成で英語を書くという生活でした。スピーキングとライティングを毎日繰り返していたため、英語をアウトプットする良い機会になったと思います。また、ウィスコンシン大学マディソン校Maeda研究室で研究を始めたばかりの11月では、実験をしながら修士論文を書くことはおそらく難しかったため、成長を感じました。まだ英語で困ることもありますが、引き続き有意義な留学となるように、研究を中心に頑張っていきたいと思います。

Koper博士、Judd博士との写真を添付します。

